

# 国際ボランティア学会

ニュースレター NO. 17

2011年8月1日

国際ボランティア学会事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2

大阪大学人間科学研究科

グローバル人間学専攻内

Tel & Fax : 06-6879-8064

E-mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

1. 新会長からのご挨拶
2. 第13回大会のお知らせ（第一報）
3. 第12回大会の報告
4. 第12回大会理事会について
5. 事務局からのお知らせ

## 1. 新会長からのご挨拶

内海成治 国際ボランティア学会会長

この度、新しい理事会で引き続き会長をとのご推薦を受けて、微力ながらお引き受けいたしました。私自身本年3月末でお茶の水女子大学を退職し、学生指導や調査に直接かかわらないために、ボランティアの新しい動向に疎くなるのではないかと心配しています。引き続き会員の皆さまからのご指導を賜りたいと思います。

2011年3月11日の東日本大震災は、これまでの想定をはるかに超えた規模の地震と津波で、広い範囲で多くの人命が失われました。心よりのお見舞い申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

東日本大震災の被害は、7月4日現在で死者1万5529人、行方不明者7098人、避難者が11万人を超えると発表されています。お一人おひとりの人生を思う時に、なぜこのような災害に私たちが遭遇しなくてはならないのかと、心のつぶれる思いです。引き続き多くの方が避難生活、仮設住宅での生活を余儀なくされており、これまで以上のボランティア活度や支援が必要です。

東日本大震災は被害の大きな部分が津波によるため、救援活動もこれまでとは異なる面が多いと思います。また復興に関しても阪神淡路や中越の教訓があまり参考にならないということも指摘されています。それゆえ、今回の救援復興のボランティア活動もこれまでとは少し異なっています。一つは地元の行政、社会福祉協議会や学校、NPO、NGOがこれまで以上に積極的に関わっていることです。またボランティアも地域の人々のイニシアティブが重視されています。勿論、海外も含めて多くのボランティアが継続的に支援を行っていますが、神戸の時のように新たらしいムーブメントとしてのボランティアではないようです。それだけボランティアが市民社会に根を張っていると言うことだと思います。

また、震災と津波後の東京電力福島第1原子力発電所のメルトダウン事故は、原発史上最大の事故です。日本の科学技術・科学技術行政がこれほど脆弱であったとはと、唾

然とさせられました。このように深刻で広範囲にわたる原発事故対策はこれまで歴史的にも経験したことがなく、あらゆる人が知恵を出し合わねばなりません。

私は3回ほど気仙沼、陸前高田、大船渡、いわきを訪問させていただきましたが、その惨状には言葉を失い、誠に心痛な思いでした。陸前高田の市街地は平野であるために海に近い部分のはがれきもないという状態でした。7万本と言われる高田松原は1本を残してなぎ倒されていました。今は静かな海を見て、地球は生きているのだと実感しました。私たちが不動の大地と思っていたこの地球は実は生きていて、私たちはこの地球とともに生きているのだということを知られました。それゆえに、こうした視点を内包した新たな市民社会を形成することが大切ではないかと思えます。

国際ボランティア学会が取り組まねばならない課題は多岐にわたり、深刻さも増しています。これまで以上に活発な研究と活動が行われるように心を尽くしたいと思います。

## 2. 第13回大会（第一報）

【日時】2012年2月25日（土）、26日（日）

【会場】立命館大学 びわこ・くさつキャンパス（BKC）

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

TEL 077-561-2617（BKCキャンパス事務課）

JR南草津駅よりバス約15分



【大会実行委員長】山口洋典

（立命館大学立命館大学 共通教育推進機構 准教授）

【実行委員】：内海成治（大阪大学名誉教授・学会長）、中村安秀（大阪大学大学院・学会事務局長）、澤村信英（大阪大学大学院）、小島祥美（愛知淑徳大学）、高橋真央（甲南女子大学）、森定玲子（プール学院大学）

【テーマ】震災・ボランティア・コミュニティデザイン

プログラム：公開シンポジウム「震災・ボランティア・コミュニティデザイン」

パネリスト 辻元 清美 衆議院議員（予定）

河野 太郎 衆議院議員（予定）

戸羽 太 陸前高田市長（予定）

コーディネーター 大西健丞（ピース・ウィンズ・ジャパン）

ラウンドテーブル、大学ボランティアセンターのシンポジウムなども予定しております。

【学会発表申込】：締切は11月中旬の予定。詳しい内容は、次号のニュースレターでお知らせいたします。

### 3. 国際ボランティア学会第12回大会開催報告

国際ボランティア学会第12回大会が2011年2月19日（土）、20日（日）の両日、文教大学湘南校舎を会場として開催されました。文教大学としては2006年2月に越谷キャンパスで国際ボランティア学会第7回大会を開催いたしました。それが以来5年ぶりとなりました。真冬の寒い週末でしたが、約80名の参加（内会員は約50名）の参加を得て、活発な報告と議論が行われました。

今回の学会のメインテーマは「市民社会とボランティア」とし、市民が公共性の担い手となるべきであるという議論の中で、ボランティアの真の価値は何か、市民が自発的かつ能動的に社会に参加することの意義は何か、若い世代に役割は何か等の論点を中心に活発な議論が行われました。2日間の会期中、個別の研究は4つのセッションに分かれ16報告が行われました。また共通論題セッション、ウェレ博士の講演会、ラウンドテーブル、ポスターセッションなど盛り沢山の内容となりました。19日には総会と懇親会も開催されました。



19日に行われた共通論題セッションでは、長瀬慎治氏（国連ボランティア計画UNV）を座長に「国際ボランティア年から10年」という問題設定で、若い人々の自発的、能動的な動きがどのように社会を変えてきているのか、若者がどのように変革をもたらす要因（change agent）となることができるかなどの点について議論を行いました。パネリストとしてカンボジアで児童買春の撲滅に取り組んでいるNGO「かものはしプロジェクト」の山元圭太さん、若い人々に海外でのワークキャンプやボランティアの機会を提供することに取り組んでいる「NICE」代表の開澤真一郎さん、ケニアウジマ財団で今回ミリアム・ウェレ博士と来日したアデルン・キナロさんがパネリストとして実践に基づいた問題提起や報告を行い、フロアからも活発な議論がありました。

19日には前回大会に引き続きラウンドテーブルが開催され、「他人事から自分事へ（Voluntary Action in Education）」および「市民社会とボランティア」の二つのセッションが行われました。前者は 大学で現在「ボランティア」に関する授業または活動をサポートする立場にいる若手教員及びスタッフを中心に、大学で「ボランティア」の「知」

と「活動」の場を提供する意味は何があるのか。また、その中で大学が果たすべき役割は何かなどを通じ、教育機関である大学での多様な側面を持つ「ボランティア」の存在意義について議論を行いました。また後者は、地元茅ヶ崎市で活動しているNPOや学生ボランティアの方々の参加を得て、NPOなどが行政の下請けになっている現状などを踏まえ、市民の自発的・能動的なアクションで何ができるのか、何かをできるようにするためにはどうすればよいのかなどについて議論を深めることができました。

20日には今回の大会のメイン・イベントともいえるケニア・ウジマ財団のミリアム・ウェレ博士による講演が行われました。同氏は、東アフリカの村々で、40年間にわたり女性、若者、子どもなどをターゲットに地域レベルへの医療サービスの提供に取り組んできました。講演“The Power of People and Volunteers in Creating the Future We Want”では、将来を構想しあるべき社会を目指すボランティアには大きな可能性と希望があることが強調され、また若い世代に大きな役割があることが示され、出席者に大きな感銘をもたらしました。



総会は19日の夕刻行われ、2010年度の事業と予算が報告・承認されるとともに、2011年度の事業計画が提案されこれも承認されました。また今年度の隅谷賞の受賞者の発表と表彰が行われました。研究奨励賞はバングラデシュ・ハティア島での調査と支援活動にと力んできた日下部尚徳会員の研究「NGOと住民—バングラデシュ・ハティア島におけるNGOの軌跡—」（『南アジア・アフェアーズ』第4号、2010年、pp.17-58）に授与されました。実践賞はルワンダにおいて孤軍奮闘しつつ、内戦の被害を被った人びと（地雷の被害者）を対象に義足をつくることに重点を置いた生活困窮者支援に立ち向かってきたルダシングワ（吉田）真美氏の実践プロジェクトに授与されました。

今回の大会で、ボランティアを中心とした新しい公共性とその担い手を意識した議論が行われたことは、実行委員長として満足のいくものでした。個別の研究報告については個々のコメントは書ききれませんが、若い世代を中心に質の高い発表が行われ、今後に大きな期待がもたれます。

なお、大会開催後3週間もたたない3月11日に東日本大震災が発生しました。この大震災は社会、経済、政治のパラダイムを大きく変えてしまうようなインパクトを与えつつありますが、一つ見えてきたことは、政府の機能が必ずしも十分といえない中、今回の大会で議論した市民の自発的・能動的行動が大きな役割を發揮していることです。大会で提起された課題や展望をさらにフォローし深めつつ、新しい地平を切り拓いていきたいと思えます。

第12回大会実行委員長 林 薫

#### 4. 2011年度理事会報告

2011年5月13日、2011年度の理事会において活発な議論が行われました。会計報告と新理事の役割分担について報告します。

(1)2010年度会計報告



## 5. 事務局からのお知らせ

### 『ボランティア学研究』への投稿をお待ちしています！

『ボランティア学研究』第12号では（2012年2月刊行見込）、「東日本大震災と国際ボランティア」の特集を組む予定です。執筆をご快諾いただきました会員諸氏には、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。また、自由投稿論文等は、9月30日を締め切りとして、現在、原稿の募集を行っています。これまでのところ、必ずしも潤沢な投稿があるわけではありません。論文に加え、研究ノート、フィールドレポート、書評の種別を設けており、研究者だけではなく、NGO等での活動を踏まえた論考や実践報告なども積極的に取り上げていきたいと考えています。学会誌は会員各位からの投稿により成り立っており、その内容は学会活動の重要なバロメーターです。

投稿に関するご質問等は、編集事務局（[vol socio@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:vol socio@hus.osaka-u.ac.jp)）または澤村（[sawamura@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:sawamura@hus.osaka-u.ac.jp)）までお願いします。編集委員一同、皆さまからの投稿を心よりお待ちしております。執筆要綱等の詳細は、学会ホームページをご覧ください。なお、第10号および第11号につきましては、刊行が遅れておりますことお詫び申し上げます。

### 会費納入のお願い

学会運営は、基本的に会員皆様からの会費で支えられております。是非とも、学会の活動にご協力をお願いいたします。また、住所・所属等を変更された場合は、速やかに事務局までご一報くださいますよう、お願いいたします。

2011年度分の会費は以下の通りです。

〔年会費〕

一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

なお、未納年数などを記した用紙と振込用紙を同封いたしておりますので、そちらをご参考の上、お振り込みください。

#### 学会事務局連絡先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学人間科学研究科グローバル人間学専攻内

国際ボランティア学会事務局

Tel & Fax: 06-6879-8064

Email: [vol socio@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:vol socio@hus.osaka-u.ac.jp)

URL: <http://volunteer.hus.osaka-u.ac.jp/>